

畑作の部

畑作部（長沼町）

I 気象概況

平成8年9月から平成9年10月までの概況は次のとおりである。

平成8年

9月：平均気温は上旬が低く、中、下旬が高かった。降水量は中、下旬が少なかった。日照時間は上、中旬が少なかった。

10月：平均気温は上旬がやや高く、中旬が低く、下旬が高かった。降水量は上旬が多かった。日照時間は上旬がやや少なかった。初霜は10月16日で、平年より6日早かった。

11月：平均気温は中旬が低く、下旬が高かった。降水量は中旬がやや多かった。日照時間は平年並であった。

12月：平均気温は上旬が低く、中旬が高かった。降水量は上、中旬がやや少なく、下旬は多かった。日照時間は上、中旬が平年並、下旬は少なかった。根雪始は平年より3日遅い12月10日であった。

平成9年

1月：平均気温は上旬が低く、中旬は高かった。降水量は中、下旬が少なかった。日照時間は上旬がやや多く、下旬が少なかった。

2月：平均気温は上旬が高く、下旬が低かった。降水量は中旬が多く、上、下旬はやや少なかった。日照時間は1か月を通じて少なかった。

3月：平均気温は上、中旬が低く、下旬もやや低かった。降水量は1か月を通じてほぼ平年並であった。日照時間は上旬が少なかった。

4月：平均気温は上旬がやや高く、中旬が低く、下旬が低かった。降水量は1か月を通じて少なく、特に下旬は少なかった。日照時間は上旬が少なかった。根雪終は4月4日で、平年並であった。

5月：平均気温は上旬がやや高く、下旬が低かった。降水量は中旬が多く、下旬は少なかった。日照時間は中旬がやや少なく、下旬も少なかった。

6月：平均気温は上旬が低く、下旬は高かった。降水量は上旬は多く、中旬は少なかった。日照時間は上旬が少なく、中旬はやや多かった。

7月：平均気温は上、下旬は高く、中旬もやや高めに経過した。降水量は上旬がやや多く、中旬が少なかった。日照時間は中、下旬が多かった。

8月：平均気温は上旬はやや高かったが、中、下旬は低く、特に中旬は著しく低かった。降水量は上旬が著しく多く、下旬は少なかった。日照時間は上、中旬は少なく、下旬はやや多かった。

9月：平均気温は中、下旬が低かった。降水量は上旬が少なく、中旬もやや少なかったが、下旬は多かった。日照時間は上、中旬が多かった。

10月：平均気温は1か月を通じて低めに経過した。降水量は上旬が多く、下旬もやや多かった。日照時間は上、中旬が少なかった。初霜は10月8日で平年より13日早かった。

以上、農耕期間（4月～10月）の気象を要約すると、気温は、積算平均気温が2,955℃で平年より105℃低かった。降水量は700mmで平年より84mm（平年対比114%）多かった。日照時間は1,101時間で平年より120時間（平年対比90%）少なかった。

季節表

年次	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H8.12.10	H9.4.4	115	H9.4.12	H9.4.14	H9.4.26	H9.10.8	165	H9.10.27
平年	12.7	4.4	119	4.20	4.23	5.5	10.21	169	11.2
比較	3	0	△ 4	△ 8	△ 9	△ 9	△ 13	△ 4	△ 6

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

農耕期間の積算値

項目		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年	2,955	3,993	1,900	700	1,101
	平年	3,060	4,102	2,052	616	1,221
	比較	△105	△109	△152	84	△120
5～ 9月	本年	2,515	3,208	1,811	529	858
	平年	2,558	3,314	1,844	460	875
	比較	△43	△106	△33	69	△17

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す

II. 作 況

1. 秋播小麦 作況：やや不良

事由：播種は平年より2日早い9月10日に行った。播種後、気温が平年より高く適度な降雨に恵まれたため、出芽期は平年より2～3日早く、出芽も良好であった。出芽後、気温は平年並から平年より低く推移したが、越冬前の生育はほぼ平年並であった。根雪始は平年より4日遅い12月10日、供試圃場の融雪期は3月30日（融雪剤散布）で積雪期間は111日であった。

雪腐病は褐色小粒菌核病の発生が主体で、雪腐病の発病程度はいずれの品種も平年を下回り被害は極めて軽微であった。融雪後、4月中旬～5月上旬前半までの降水量が極端に少なかったため生育は平年よりやや劣ったが、5月中旬、6月上旬の多雨で草丈および茎数は平年並から平年を上回った。5月下旬～6月上旬の低温で、出穂期は早生種の「タクネコムギ」は平年並であったが中生種の「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」は平年より3～5日遅れた。出穂後も気温は平年より低く推移したため開花期は6月16～21日で、早生種の「タクネコムギ」は開花期まで2週間を要し先端不稔がややみられた。6月下旬から天候は回復し気温が平年より高く推移したため生育は進み、7月上旬の風雨で倒伏の発生が一部みられたが、成熟期は平年より2～4日早かった。

成熟期の稈長はほぼ平年並、穂長は「ホロシリコムギ」が平年をやや下回った他はほぼ平年並で、穂数は平年並から平年を上回ったが、登熟期間が平年より短縮されたため千粒重はいずれの品種も平年を下回り、とくに中生種の「ホロシリコムギ」「チホクコムギ」で大きかった。子実重は「チホクコムギ」が平年対比102%と平年並の収量を示したが、「ホロシリコムギ」は穂長、千粒重が平年を下回り「タクネコムギ」は先端不稔の発生もややみられたため、子実重の平年対比はそれぞれ91%、96%と平年を下回った。検査等級はいずれの品種も1等で良好であった。

以上により、本年の作況は品種によって傾向を異にするが3品種を込みにしてやや不良である。

項目	品 種 名 年 次	ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(平8.月.日)	9.10	9.12	△ 2	9.10	9.12	△ 2	9.10	9.12	△ 2
出芽期	(平8.月.日)	9.18	9.21	△ 3	9.18	9.20	△ 2	9.18	9.20	△ 2
出穂期	(月.日)	6.15	6.10	5	6. 3	6. 3	0	6.14	6.11	3
成熟期	(月.日)	7.22	7.25	△ 3	7.16	7.18	△ 2	7.20	7.24	△ 4
雪腐病	(0:無～5:甚)	0.4	1.4	△ 1.0	0.4	1.3	△ 0.9	0.9	2.1	△ 1.2
草 丈 (cm)	平8.10月20日	20.1	21.9	△ 1.8	19.7	22.9	△ 3.2	19.6	23.4	△ 3.8
	5月20日	41.5	45.4	△ 3.9	42.4	46.7	△ 4.3	39.6	43.8	△ 4.2
	6月20日	100.5	101.2	△ 0.7	106.4	104.2	2.2	97.7	91.8	5.9
茎 数 (本/m ²)	平8.10月20日	980	845	135	1058	1000	58	978	946	32
	5月20日	1188	1176	12	1139	1243	△ 104	1162	1195	△ 33
	6月20日	728	621	107	778	776	2	744	695	49
成熟期 に おける	稈長 (cm)	95	97	△ 2	99	96	3	91	88	3
	穂長 (cm)	8.0	8.6	△ 0.6	7.3	7.6	△ 0.3	7.0	7.2	△ 0.2
	穂数 (本/m ²)	619	506	113	699	713	△ 14	623	607	16
子 実 重 リットル 重 (g)	(kg/10a)	452	499	△ 47	396	413	△ 17	468	457	11
	(g)	778	754	24	788	786	2	750	740	10
	(g)	41.6	44.7	△ 3.1	37.2	37.8	△ 0.6	35.9	38.5	△ 2.6
千粒重	(等級)	1	1	—	1	1	—	1	1下	—
子実重平年対比	(%)	91	100	△ 9	96	100	△ 4	102	100	2

注) 平年値は前7か年中、平成2年、4年(各収穫年度)を除く5か年平均。

2. 春播小麦 作況：平年並

事由：播種は平年より15日早い4月14日に行った。播種後に降雨がほとんどなく、出芽は緩慢で不揃いであったが、平年より10日早い5月1日に出芽期に達した。6月上旬の著しい低温により生育は停滞し、出芽が平年より早かったにもかかわらず出穂期はほぼ平年並となった。節間伸長期・分けつ盛期である6月中・下旬の干ばつにより稈長は平年並にとどまり、穂数は平年より少なかった。その後、7月中・下旬の高温傾向により、成熟期は平年より4～6日早まり、登熟期間は平年より短縮された。

登熟期間は短かったが、登熟期間中の日照時間は平年より多く、また気温の日較差が大きかったため、穂数が少なかったこともあいまって千粒重が平年よりやや大きかった。また、栄養生長期間が長かったため穂長は平年より長く、かつ稔実も良好であったため、一穂粒数が多かった（昨年比）。このため、子実重は平年対比110～116%の多収となった。一方、品質面では、リットル重は平年並からやや優り、粒の外観は「ハルユタカ」はわずかに穂発芽がみられたため等外となったが、「春のあけぼの」は黒目粒が散見されたものの粒張りがよく1等となった。

以上により、本年の作況は、収量性では「良」であるが品質面で品種により傾向を異にし、これらを勘案して平年並とする。

品 種 名		ハルユタカ			春のあけぼの		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播 種 期	(月.日)	4.14	4.29	△ 15	4.14	4.29	△ 15
出 芽 期	(月.日)	5. 1	5.11	△ 10	5. 1	5.11	△ 10
出 穂 期	(月.日)	6.26	6.25	1	6.25	6.25	0
成 熟 期	(月.日)	8. 1	8. 5	△ 4	8. 3	8. 9	△ 6
6月20日 (参考)	草丈 (cm)	66	58	8	68	63	5
	茎数 (本/m ²)	614	748	△ 134	621	719	△ 98
成 熟 期 に お け る	稈長 (cm)	79	80	△ 1	82	81	1
	穂長 (cm)	9.2	8.3	0.9	8.7	8.1	0.6
	穂数 (本/m ²)	379	475	△ 96	427	466	△ 39
子 実 重	(kg/10a)	328	283	45	343	311	32
リットル重	(g)	785	762	23	788	787	1
千 粒 重	(g)	39.7	38.0	1.7	41.5	39.8	1.7
品 質	(等級)	等外	2下	—	1	2	—
子実重平年対比	(%)	116	100	16	110	100	10

注) 平年値は前7か年中、平成5年、8年を除く5か年平均。

ただし、6月20日の平年値は「ハルユタカ」は欠測の平成2年も除く4か年平均、「春のあけぼの」は平成6年、7年の2か年平均で、いずれも参考値である。

3. 大豆 作況：平年並

事由：播種期は平年より7日遅かった。播種後は6月上旬まで低温に経過したが、土壌水分が充分であったことと、6月中旬からの好天で出芽の揃いは良好であった。出芽期は平年より4～7日遅かった。6月中旬から7月の気温が高めに経過したため、生育の遅れは、やや徒長気味ではあったが7月中旬でほぼ回復した。各品種の開花期は平年並～2日早かった。8月中旬はかなりの低温に見まわれ、それに起因する臍周着色などの発生が懸念された。しかし、臍着色が「ユウヒメ」で1.2%、「ツルムスメ」で0.4%の発生であり、臍周着色は両品種とも認められず、影響は少なかった。成熟期は「ユウヒメ」でほぼ平年並、「ツルムスメ」は平年より3日早かった。登熟期間は両品種ともほぼ平年並であった。両品種とも主茎長及び主茎節数は平年並、分枝数はやや多かった。着莢数は「ユウヒメ」で平年より少なかったが「ツルムスメ」は平年よりやや少ない程度であった。一莢内粒数は「ユウヒメ」でやや多く「ツルムスメ」で平年並であった。百粒重は両品種とも平年よりやや軽かった。子実重は「ユウヒメ」が327kg/10aで平年対比100%、「ツルムスメ」が311kg/10aで平年対比102%であった。品質(検査等級)は「ユウヒメ」、「ツルムスメ」とも1等で、平年より良かった。

「ユウヅル」は、7月以降茎疫病による立枯個体が多発生したため、8月以降は健全株のみ調査・収穫を行い、参考値とする。主茎長で平年よりやや短く、主茎節数は平年並、分枝数はやや多かった。成熟期は平年より5日遅かった。収量は371kg/10aで、平年対比113%であったが、これは健全株のみ収穫したためである。品質は臍着色が多発(53.3%)し、臍周着色も認められた(2.7%)。このため、検査等級は1等であったが鶴の子大豆銘柄には入らなかった。

以上により、本年の作況は平年並である。

項目	品種名 年次	ユウヒメ			ユウヅル			ツルムスメ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.26	5.19	7	5.26	5.19	7	5.26	5.19	7
出芽期	(月.日)	6.12	6.8	4	6.12	6.6	6	6.12	6.5	7
開花期	(月.日)	7.22	7.22	0	7.28	7.29	△ 1	7.19	7.21	△ 2
成熟期	(月.日)	10.4	10.3	1	(10.19)	10.14	(△ 5)	9.28	10.1	△ 3
主茎長 (cm)	6月20日	9.7	10.1	△ 0.4	8.3	8.1	0.2	7.9	10.7	△ 2.8
	7月20日	35.9	32.9	3.0	29.0	29.0	0.0	38.6	34.0	4.6
	8月20日	52.2	51.4	0.8	58.8	64.5	△ 5.7	46.5	47.7	△ 1.2
	9月20日	53.7	52.3	1.4	(60.2)	65.1	(△ 4.9)	46.0	47.8	△ 1.8
	成熟期	53.9	53.2	△ 0.7	(61.4)	64.3	(△ 2.9)	46.4	47.0	△ 0.6
主茎節数 (節)	6月20日	2.1	3.7	△ 1.6	2.2	2.8	△ 0.6	2.3	3.5	△ 1.2
	7月20日	8.5	8.9	△ 0.4	8.0	8.3	△ 0.3	8.8	9.1	△ 0.3
	8月20日	13.1	12.1	1.0	14.2	14.6	△ 0.4	12.8	11.9	0.9
	9月20日	13.2	12.6	0.6	(14.5)	15.0	(△ 0.5)	12.5	11.9	0.6
	成熟期	12.6	12.6	0.0	(14.6)	14.8	(△ 0.2)	12.0	12.0	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	3.9	4.2	△ 0.3	1.5	2.5	△ 1.0	3.9	2.7	1.2
	8月20日	5.4	5.9	0.5	5.5	5.2	0.3	4.7	4.5	0.2
	9月20日	6.2	5.8	0.4	(5.6)	5.4	(0.2)	5.1	4.4	0.6
	成熟期	7.5	6.7	0.8	(6.3)	5.6	(0.7)	6.4	5.2	1.2
着莢数 (莢/株)	9月20日	49.8	60.1	△ 10.3	(61.7)	63.0	(△ 1.3)	49.1	50.2	△ 1.1
	成熟期	49.8	59.4	△ 9.6	(59.5)	64.4	(△ 4.9)	48.4	51.8	△ 3.4
一莢内粒数	(粒)	2.04	1.88	0.16	(1.82)	1.83	(△ 0.01)	1.92	1.88	0.04
子実重	(kg/10a)	327	326	1	(371)	326	(45)	311	304	7
百粒重	(g)	41.2	42.8	△ 1.6	(42.2)	42.7	(△ 0.5)	43.8	44.3	△ 0.5
虫喰率	(%)	1.0	0.7	0.3	(2.3)	0.4	(1.9)	0.7	0.6	0.1
品質	(等級)	1	2下	—	(1)	3上	—	1	2下	—
子実重平年対比	(%)	100	100	0	(113)	100	(13)	102	100	2

- 注1) 平年値は前7か年中、平成5年、6年を除く5か年平均。
 2) 「ユウヅル」の括弧書きは健全個体のみの参考値である。
 3) 本年の子実重、百粒重は水分15%換算値である。

4. 小豆 作況：不良

事由：播種は5月中旬の降雨の影響により遅れ、平年より7日遅れの5月26日に行った。播種後は6月上旬に降雨があり水分条件は良好であったが低温に経過したため出芽は遅延し、平年より9日遅れの6月16日となった。出芽後は7月下旬まで高温に経過し、また7月上旬に十分な降雨があったことから生育は平年並に回復し、開花期は平年より1日遅れとなった。開花後の8月上旬は、気温は平年並であったが多雨のためやや徒長気味の生育となった。しかし、8月中旬の低温の影響により開花終期の着莢が少なく着莢数は平年を下回った。その後も低温傾向に推移し登熟はやや緩慢であったが、日照時間が平年より多かったため成熟期の遅延はほとんど見られなかった。主茎長、主茎節数、分枝数は7月の高温多雨の影響で平年を上回り、一莢内粒数も、主要な開花期間の8月上旬までが好天であったことから平年を上回った。登熟期間は、ほぼ平年並の日数となり、気温は低かったが、日照時間は多かったため、百粒重はほぼ平年並となった。総体的には着莢数の減少が大きく、一莢内粒数の増加では補償できなかったため、子実重は平年より24kg/10a少ない227kg/10aとなった。平年対比は90%である。品質はほぼ平年並であった。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		エリモショウズ		
		本 年	平 年	比 較
項 目	年 次			
播 種 期	(月.日)	5.26	5.19	7
出 芽 期	(月.日)	6.16	6.7	9
開 花 期	(月.日)	7.26	7.26	0
成 熟 期	(月.日)	9.9	9.10	△ 1
主 茎 長 (cm)	6月20日	3.2	4.5	△ 1.3
	7月20日	16.2	13.0	3.2
	8月20日	45.0	34.2	10.8
	成 熟 期	43.2	34.3	8.9
主 茎 節 数 (節)	6月20日	1.0	1.6	△ 0.6
	7月20日	6.7	6.6	0.1
	8月20日	13.1	12.3	0.8
	成 熟 期	13.1	11.7	1.4
分 枝 数 (本/株)	7月20日	2.1	1.6	0.5
	8月20日	3.2	2.8	0.4
	成 熟 期	3.2	2.6	0.6
着 莢 数 (莢/株)	8月20日	27.9	29.4	△ 1.5
	成 熟 期	34.5	40.6	△ 6.1
一 莢 内 粒 数	(粒)	6.99	6.58	0.41
子 実 重	(kg/10a)	227	251	△ 24
百 粒 重	(g)	12.9	12.7	0.2
屑 粒 率	(%)	2.4	1.5	0.9
品 質	(等級)	2中	2下	—
子実重平年対比	(%)	90	100	△ 10

注) 平年値は前8か年中、平成3年(最豊)、6年(最凶)、8年(茎疫病激発)を除く5か年平均。

ただし、成熟期の平年値は未成熟に終わった平成元年も除く4か年平均

なお8月20日付け作況及び9月20日付け作況の主茎節数の平年値が誤っていましたので、上記の通り訂正します。

5. 菜豆 作況：不良

事由：播種は5月中旬の降雨の影響により平年より6日遅れの5月29日に行った。播種後は低温に経過したため出芽は遅延し、平年より8日遅れの6月19日に出芽期を迎えた。

出芽後は高温に経過したため生育は一時回復傾向に向かった。しかし、降水量が7月中旬以降少なかったため、干ばつの影響で生育を回復する前に生殖生長を開始した。すなわち、開花期は平年より2日早まり栄養生長期間が短くなり、その時点の主茎長、分枝数は平年を大きく下回った。

開花後は8月中旬以降低温に経過したため成熟期は遅延し、平年より10日遅れの9月15日となった。生育日数がのびたため主茎節数が増加し着莢数は平年を上回った。また、登熟期間が延長したため百粒重は平年を5g上回った。しかし、8月上旬の多雨と中旬の低温の影響を受けて一莢内粒数は平年を下回り、成熟後収穫までの降雨により腐敗粒が発生し、屑粒率が高かった。このため、子実重は平年対比90%の212kg/10aにとどまった。品質は屑粒の多さが原因となり、平年より1等級劣った。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		改良早生大福		
		本 年	平 年	比 較
項 目	年 次			
播 種 期	(月.日)	5.29	5.23	6
出 芽 期	(月.日)	6.19	6.11	8
開 花 期	(月.日)	7.16	7.18	△ 2
成 熟 期	(月.日)	9.15	9. 5	10
主 茎 長 (cm)	6月20日	6.3	17.2	△10.9
	7月20日	154	204	△ 50
	8月20日	263	269	△ 6
	成 熟 期	270	268	2
主茎節数 (節)	7月20日	14.4	15.1	△ 0.7
	8月20日	22.8	20.6	2.2
	成 熟 期	24.9	21.0	3.9
分 枝 数 (本/株)	7月20日	1.8	3.3	△ 1.5
	8月20日	2.0	3.1	△ 1.1
	成 熟 期	2.0	2.8	△ 0.8
着 莢 数 (莢/株)	8月20日	30.0	33.4	△ 3.4
	成 熟 期	38.2	33.5	4.7
一莢内粒数	(粒)	3.56	4.09	△0.53
子 実 重	(kg/10a)	212	236	△ 24
百 粒 重	(g)	70.0	65.0	5.0
屑 粒 率	(%)	9.7	4.6	5.1
品 質	(等級)	3	2	—
子実重平年対比	(%)	90	100	△ 10

注) 平年値は前9か年中、干ばつまたは湿害により生育不良の平成4年、6年、7年、8年を除く5か年平均。

6. ばれいしょ 作況：良

事由：植付は平年より7日早い4月25日に行った。植付後、気温は平年並から平年より低く推移したため、萌芽期はほぼ平年並となった。萌芽後、茎数は平年をやや下回り茎長は平年並に推移したが、6月下旬以降、気温は平年並から平年より高く推移したため、早生種の「男爵薯」は開花期には達せず、茎長・茎数とも平年を下回り生育の抑制がみられた。中晩生種の「農林1号」の開花期はほぼ平年並で、茎数は平年を下回ったが茎長は平年を上回った。

開花後、7月は好天に恵まれ早生種の「男爵薯」は7月中旬後半頃から黄変が始まったが、8月上旬の多雨では場が過湿気味となり地上部の二次生長もややみられたため、「男爵薯」の枯凋期は平年より11日遅れの8月30日となった。中晩生種の「農林1号」は9月中旬以降の気温も平年より低く推移したため、平年より22日遅れの10月4日に枯凋期となった。

塊茎の肥大は、8月中旬、9月中旬の気温が平年より低く8月下旬からの日照時間が平年を上回ったため、株当たりいも数は両品種とも平年を上回り、「男爵薯」は一個重およびでん粉価が平年を下回ったが「農林1号」はほぼ平年並となり、中晩生種にとって塊茎の肥大は良好となった。そのため、「男爵薯」の上いも重は平年対比で106%と多収を示したが、一個重が平年を下回ったため中以上いも重は平年対比99%とほぼ平年並となった。一方、「農林1号」の上いも重、中以上いも重の平年対比はそれぞれ122%、124%と平年を大きく上回った。

以上により、本年の作況は品種により傾向を異にするが2品種を込みにして良である。

項目	品種名 年次	男爵薯			農林1号		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.25	5.2	△ 7	4.25	5.2	△ 7
萌芽期	(月.日)	5.25	5.26	△ 1	5.25	5.26	△ 1
開花期	(月.日)	不達	6.28	—	6.28	6.29	△ 1
枯凋期	(月.日)	8.30	8.19	11	10.4	9.12	22
茎長 (cm)	6月20日	31	34	△ 3	34	34	0
	7月20日	36	43	△ 7	65	55	10
	8月20日	—	—	—	69	57	12
茎数 (本/株)	6月20日	3.9	4.7	△ 0.8	3.2	4.6	△ 1.4
	7月20日	3.5	4.5	△ 1.0	3.1	4.5	△ 1.4
	8月20日	—	—	—	3.0	4.6	△ 1.6
上いも数	(個/株)	12.1	10.4	1.7	11.9	10.6	1.3
上いも平均一個重	(g)	67	81	△ 14	98	97	1
上いも重	(kg/10a)	3577	3371	206	5156	4236	920
中以上いも重	(kg/10a)	2644	2667	△ 23	4584	3701	883
でん粉価	(%)	14.8	15.4	△ 0.6	16.5	16.6	△ 0.1
でん粉重	(kg/10a)	492	485	7	799	656	143
上いも重平年対比	(%)	106	100	6	122	100	22
中以上いも重	〃 (%)	99	100	△ 1	124	100	24
でん粉重	〃 (%)	101	100	1	122	100	22

注) 平年値は前7か年中、平成4年、6年を除く5か年平均。

上いも数および平均一個重は栽植密度変更(平成4年～)のため参考値。

「上いも」は20g以上、「中以上いも」は60g以上の塊茎である。

7. てんさい 作況：平年並

事由：播種は平年並の4月4日に行った。4月下旬は好天に経過したため、移植は平年より8日早い5月1日に行った。移植後、5月4日から6日にかけて強風が吹き、風害は認められなかったが活着はやや遅れた。その後は順調に推移し、5月20日には草丈、葉数は概ね平年並となった。5月下旬から6月上旬にかけて低温・寡照に経過したため、地上部の生育はやや停滞し、6月20日の草丈、葉数は平年を下回った。6月下旬以降は気温、日照時間が平年をやや上回り、降水量はほぼ平年並であったため、生育は順調に進んだ。このため、7月20日には草丈、葉数、根周ともに平年並となった。圃場が干ばつ気味であったため、8月上旬は多雨であったが、生育が停滞するほどの影響はなく、8月20日には草丈は平年よりやや低いが、葉数、根周はほぼ平年並であった。

8月中旬以降は気温は低めに経過し、特に9月中旬は著しく低温であった。一方、日照時間は多く、特に9月上旬は著しい多照であったが、この間降水量は少なく、圃場は再び干ばつ傾向となり、根部の肥大はやや停滞した。また、9月下旬以降は、低温、多雨、寡照気味に経過したため、引き続き根部の肥大はやや緩慢であった。

収穫期は平年より1日遅い10月14日であった。収穫期の葉数は平年をやや上回ったが、草丈、根周は平年よりやや低かった。10a当たり根重は7.48tで平年対比97%であったが、根中糖分は17.08%で同102%であったため、糖量は1274kgで同98%であった。

以上により、本年の作況は平年並である。

品種名(栽培法)		モノホマレ(移植)		
		年次	本 年	平 年
播 種 期	(月.日)	4. 4	4. 4	0
移 植 期	(月.日)	5. 1	5. 9	△ 8
収 穫 期	(月.日)	10.14	10.13	1
草 丈 (cm)	5月20日	5.0	5.3	△ 0.3
	6月20日	22.6	28.4	△ 5.8
	7月20日	48.1	50.9	△ 2.8
	8月20日	52.1	58.2	△ 6.1
	9月20日	52.5	58.1	△ 5.6
	収 穫 期	51.0	55.9	△ 4.9
葉 数 (枚)	5月20日	3.1	2.8	0.3
	6月20日	8.5	11.4	△ 2.9
	7月20日	19.9	19.5	0.4
	8月20日	24.2	22.9	1.3
	9月20日	26.9	26.8	0.1
	収 穫 期	30.3	26.4	3.9
根 周 (cm)	7月20日	21.2	21.6	△ 0.4
	8月20日	29.3	29.8	△ 0.5
	9月20日	32.4	33.9	△ 1.5
	収 穫 期	33.1	35.4	△ 2.3
茎 葉 重	(t/10a)	3.37	3.96	△0.59
根 重	(t/10a)	7.48	7.74	△0.26
根中糖分	(%)	17.08	16.79	0.29
糖 量	(kg/10a)	1274	1299	△ 25
根 重	平年対比 (%)	97	100	△ 3
根中糖分	" (%)	102	100	2
糖 量	" (%)	98	100	△ 2

注) 平年値は前7か年中、平成3年、4年を除く5か年平均。

ただし、草丈、葉数および根周の平年値は欠測の平成5年も除く4か年平均。